

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	角館の観光行事実行委員会補助金					
担 当 課 係 名	観 光 課		観 光 係		作成者	伊藤誠孝
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち				総合計画の ページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし				
	主要施策	テンミリオン計画の推進				29
予 算 費 目	一 般 会 計		7 款 商 工 費	1 項 商 工 費	3 目	観 光 費
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度			新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☒ 補助金 ☐ 内部管理					
根 拠 法 令 等	仙北市補助金等交付規則					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務					
運 営 方 法	☐ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☒ 補 助					

【事務事業の実施内容】

事業の対象（誰のため・何を）	桜まつり、送り盆行事、火振りかまくら行事の三事業を角館の観光行事としている。 市民、観光客等を対象としている。
事業の目的・意図（どういう状態にしたいのか）	桜まつりについては、仙北市の代表的な観光地の宣伝に努め、観光客のより一層の増加を図る。送り盆については、400年以上の歴史を伝えるささら舞をとおして後世に伝承する。火振りかまくらについては、冬季観光の宣伝誘客に努めることを目的とする。
事業の内容（どのような業務、活動を行うのか）	桜まつりについては、観光宣伝、誘客、交通整理等。送り盆についてはささら舞、出店振舞酒の提供、角館音頭の披露、観覧席及び案内看板の設置等。火振りかまくらについては、炭俵、天筆、わら束、雑片の準備及び配布、雪灯籠作成等。

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	観光客数	目標	人	1,450,000	1,600,000	1,450,000	
			実績	人	1,586,500	1,422,500	1,179,500	
			達成度	%	109.4%	88.9%	81.3%	
	成果指標	観光客数対前年比	目標	%	100.0	110.0	91.0	
			実績	%	111.5	89.7	82.9	
			達成度	%	111.5%	81.5%	91.1%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				11,100	11,100	11,100	
	人 件 費 (B)		—		3,927	4,036	7,133	
	職 員 数		—		0.50	0.50	0.90	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				15,027	15,136	18,233	
	財源内訳	国 庫 支 出 金						
		県 支 出 金						
		地 方 債						
		そ の 他						
		一 般 財 源				15,027	15,136	18,233
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		9	11	15
		市民1人当たりのコスト(円)		—		471	481	587

【事務事業の今までの成果】

桜まつりは、全国でも有数の名勝地となり定着しており、期間中の人出の１００万人を超える仙北市最大のイベントとなっている。送り盆、火振りかまくらは、観光客数は会期の関係で多くはないが、伝統を尊重し、後世への継承と観光宣伝誘客効果へつなげる。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	桜まつりは、全国各地から問い合わせ、テレビ取材等があり注目度が高いイベントとなっている。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	多くの観光客が訪れる事により、交通渋滞、駐車場、飲食店等に対する要望、苦情が多くなっている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	交通渋滞対策、駐車場、会期等の見直し。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

観光客の更なる増加と安全かつ円滑なイベントの開催のために、交通渋滞の改善、駐車場の見直し、開催期日の見直し、改善等を行い、日本一の桜、伝統行事の送り盆、火振りかまくらを後世に伝承していきたい。

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
C 2	補助金を支出していることに加えて、実行委員会の経理を含めた事務の多くを観光課が担っている実態があることから、実行委員会の他の構成員との適正な役割分担を図る必要があります。 これはイベント関係の事業費に共通の課題であり、抜本的な見直しが必要と考えます。

一次評価診断図

